

極小美術館 2個展

揖斐郡池田町草深の極小美術館で、美術家の米山より子さん、愛知県
〓と、画家の片岡美保香さん、山県市〓の個展が開かれている。それぞ
れが新たな表現の可能性に挑んだ。
(大塚瑠美)

美術家・米山より子さん

大垣の湧き水から着想

米山さんは、埼玉県生まれ、東京
芸術大美術学部工芸科卒業、現在は
名古屋芸術大准教授。「水と紙と米」
をテーマに、和紙を用いたインスタ
レーションを発表している。

今回の作品「地下水 Under
water」は、池田町に隣接す
る大垣市で地下水が湧き出る光景を
見て着想した。「地下水は静かなイ
メージだったが、実際はこんこんと
湧き続ける、動きのあるものだっ
た」。宮内庁などに美術品修復用の
和紙を納める「福西和紙本舗」(奈
良県)の、コウゾのみをすいた生漉
紙を使用。幅約40センチ、長さ約120
センチの紙を何百枚も重ねて直
径約60センチの同心円を形作り、地から
湧き出る水を表現した。

「あめつち ほこそら やまかは
から始まる、平安時代につくられた
とされるいろは歌「天地の詞」に
もインスパイアされた。和紙に印刷
した歌を一字ずつ切り抜き、壁に
あしらった。水の豊かさは一方で水

和紙を使ったインスタレーションを発表
した米山より子さん、揖斐郡池田町草
深、極小美術館

害と隣り合わせて「恩恵と苦難が水
という同じ源泉から生まれている、
ということを強く意識した」と語る。
蛇腹折りにして水にぬらし、繊維
をほどいていくという、和紙の製造
工程をさかのぼるかのような方法
で、布に似た質感を出した。元々は
金属工芸が専門だった米山さん。金
属に熱を入れて伸ばし、変形させる
工程と、和紙に水を加えて変形させ
る工程に、共通点を見いだしている
という。

実は7月の豪雨で館内の壁の一部
が水に染みため、作品の大幅なブ
ラン変更を余儀なくされたが、逆境
をものともせず源泉を表現。水と共
存しながらしぶとく生きる人々の姿
と重なるようだ。米山さんは、本来
は真っすぐな素材である和紙をあえ
て曲げたことにより「強さが前面に
出た」と話す。「今回の作品が始ま
り。これを源流に、今後は優しい水
の表現をするという新たな展開を見
せていきたい」